

## 学科の学び・カリキュラムポリシー

本学科では、バイオサイエンスの要素的・基礎的な知識・技術を基盤として、個体レベルにおける生命現象の理解のもとに、生物多様性学、動物科学、実験動物学、食品機能学、食品衛生学などに関する知識・技術とその応用能力、さらに論理的・実践的思考能力を修得し、21世紀型社会に貢献できる人材の育成を教学の目標に据えています。そのため、「アニマルバイオサイエンス専門教育プログラム」を設置しています。

- I（生物多様性学） 生物がどのような進化を経て多様化したか、地球環境における生物多様性の実態と重要性、ヒトと動物の関係について分子・ゲノムレベルから形態形成、個体集団レベルまで、野外実習を含めさまざまな視点からの学習を行います。
- II（動物科学） 動物において遺伝子、分子、細胞レベルのバイオサイエンスを基盤として学ぶとともに、個体レベルの生理、行動、病理、発生などを学習し、発生工学、再生工学等を実践する技術を修得します。また、これらの知識と技術を応用してヒトの病気の原因や治療法の探索、食品の安全性評価に貢献する能力を養います。
- III（実験動物学） 動物実験における生命倫理を理解するとともに、哺乳動物を中心とした実験動物の適切な取り扱い技術・管理方法を修得し、実験動物技術者資格を取得するために必要とされる学力を身につけます。
- IV（食品機能学） 野外実習も含めたさまざまな視点から家畜の生理、代謝、食性、飼料調製および畜産物の生産過程と加工についての知識を身につけるとともに、特に代謝異常のもたらす疾病については人体を含め総合的に理解し、応用する能力を修得します。
- V（食品衛生学） 食中毒・食物アレルギー・食品添加物・遺伝子組み換え食品などの食の安全の基礎、および食糧環境問題・食品機能・食品分析についての知識と技術を修得し、食品衛生監視員あるいは食品衛生管理者の資格を取得するために必要とされる学力を身につけます。
- VI（論理的・実践的思考） 修得した知識・技術を自らの考えで必要に応じた形で利用する論理的・実践的能力を、実験・実習および卒業研究を通じて修得します。

## 卒業までに身につけるべき能力 学位授与方針・ディプロマポリシー

広い教養とバイオサイエンスの専門知識・技術を兼ね備え、産業の振興および学術文化の発展に寄与する人材であること。

- 1 バイオサイエンスの深い知識を基盤とした専門技術力を持つ
- 2 高度情報化社会に適応できる情報解析力と国際化に対応できる語学力を持つ
- 3 生命への尊敬と倫理観、地球環境への洞察力を持つ
- 4 主体的に学び、自ら課題を発見し、その解決法を導き出す思考力を持つ
- 5 他者と意思を疎通し、協力して物事にあたる行動力を持つ

これらの能力の獲得と、学部の教育課程に規定する所定単位の取得をもって、学士課程学位を授与します。